子どもの 自分でやりたい！ のさりげないお手伝い

「自分でやりたい！」「ひとりでやりたい！」「手伝わないで～」
子どもがいろいろなことに興味を示し、チャレンジしようとする姿は、成長が感じられて嬉しいものですね。
時には、思うように出来ないと怒ったり、泣いたりすることはありませんか・・・
そんな時は、大人のちょっとしたサポートで解決することも。
先輩ママに聞いた『さりげないお手伝い』の一例をご紹介します。

《自分でズボンを履こうとするけれど、なかなか足が出ない時》
ズボンの裾を覗いて「○○ちゃんの足、出てくるかな～」と言いながら、
さりげなく裾を引っ張り、足が通りやすくなるようにする。
最後にズボンを引き上げるのは子ども♪
（実は、大人がおしり側のズボンを気づかれないように上げている）

《自分で靴を履こうとしても、上手く足が入らない時》
「今日はどこに行こうか」などと話しかけながら、さりげなく履き口を大きく広げる。
仕上げのマジックテープ止めは子どもにさせて、大いに褒める♡

ポイント！
ちょっとした台に腰掛けると、
ズボンや靴が履きやすくなります♡

《前開きの服を着るのがむずかしい時》
- 服を羽織るように肩にかけてあげるのは大人。でも、本当はずり落ちないようにさりげなく押さえておく。子どもがトンネル（袖）に手を入れて完了！
- 前開きにした服を、襟元が子どもの前になるようにして床に広げる。
（さりげなくセッティング♡）
あとは、子どもが袖に両手を入れ、そのまま後ろに回せば着られます♪

ポイント！
大人が手伝おうとすると、邪魔されたと感じて激しく抵抗することも。
「○○だけ手伝おうか？」などと聞き、子どもの意思を確かめてから
サポートするのもよいでしょう。

袖に手首まで入れて
頭のうしろへまわす♪

自分でやりたいけど、うまくできない。手伝ってほしいけど、手伝われるのはイヤ……。
幼児期のこころは、自立と依存の気持ちの間で揺れる『イヤイヤ期』とも重なります。
大人にとっては困ってしまう場面だけれど、これらは“自立の芽生え”でもあります。

子どもの「自分で」という気持ちを受け止め、大人がタイミングよく、さりげなく、サポートしてあげられるとよいですね。「自分でできた♡」という小さな成功体験の積み重ねが、子どもの自信となり、次への意欲につながることでしょう。